

[平成11年度共同研究報告]

一般教育における視聴覚教材の利用 — 『となりのトトロ』の実験 (ディクテの授業記録) —

青 柳 り さ

はじめに

第1回 2000年4月24日

文法復習 エリズィオン

数字

以前から、ディクテという方法が、聞き取る力を養うのみならず、それを書き取るという作業のなかで、文法、語彙の習得に非常に効果的であることを認識していたが、それをどのような形で授業のなかにうまくとり入れるか、フランス人へのインタビューの録音を用いたり、シャンソンの一部を聞き取るプリントを作成したり、講読用の短いテキストのテープを用いたり、いろいろな素材(とりわけドキュマン・オータンティック)を用いて、様々な方法を模索してきた。

今回、『となりのトトロ』のフランス語版のビデオを入手したことで、このビデオが、ディクテの教材として理想的なのではないかという思いをもち、4年生の比較的少人数の意欲的なクラスで、実験を試みた。本稿は、その記録である。

まず、最初の20分で20問程度の文法の復習をし、そのあとディクテにとりかかり、最後に、その日の分を全体を通して聞き直す、という授業形態をとった。対象学年、使用テキスト、使用ビデオ、使用辞書は以下の通りである。

対象学年	4年次(1年次文法1コマ、2年次会話1コマ、3年次中級文法及びディクテ1コマとフランス人講師による会話1コマ)
使用ビデオ	<i>Mon voisin TOTORO</i>
使用教材	岩根久著『きりとるテスト 10分間でフランス語』第三書房
使用辞書	クラウン仏和辞典 プチロワイヤル仏和辞典 ディーコ仏和辞典 白水社現代和仏辞典 スタンダード和仏辞典 ロワイヤル和仏辞典

Mei : Merci.
 Satsuki : Papa, tu veux un caramel ?¹
 Papa : Oui, je veux bien, merci.²
 Satsuki : De rien.³
 Papa : Ça va ? Pas trop fatiguées ?⁴
 Papa : On arrive bientôt.⁵

1 まず「キャラメル」«caramel」という単語が聞こえた。「パパ、キャラメル食べる? キャラメルいる?」と言っているだろうとのことで、「vous voulez」という表現が出てきたが、「voulez」と聞こえないために、「vouloir」の«tutoyer」だろうということになった。仏和辞典の後の表の、「vouloir」の活用表を参考にして、「tu veux caramel」となり、「名詞が冠詞なしで用いられることは、熟語以外ほとんどない」ことに注意を促すことで、「un」が聞こえ、「tu veux un caramel」を聞き取ることができた。

2 «merci」はすぐに聞こえた。「キャラメルほしい?」の答えとして、「うん、ほしい」ということだろうということで、「je veux ... merci」さらに、「ビヤン」もまもなく«bien」となり、「Oui, je veux bien merci.」と聞き取ることができた。

3 「ドリヤ」と聞こえるが、表現を知らないようで、聞こえてこない。「お父さんの「ありがとう」になんて答えているのだろう」というヒントに「どういたしまして」にあたる«de rien」という表現を和仏辞典に見つけ、聞き直してみると、その通りに聞こえた。ここで、「De rien.」、「どういたしまして」という表現を覚えることができた。

4 «Ça va ?」は1年次から何度も使っているのに、問題なし。「ファティゲ」の音を聞き取り、仏和の

«f」の項をたどって「fatigué」を発見。「疲れた？」と聞いているのかということになったが、「Tu es fatigué ?」とも「Vous êtes fatigués」とも聞こえない。そのうちに「pas」の音が聞こえ、「pas fatigué」。さらに、「t」の音を辞書でたどって、「très fatigué」、「trop fatigué」、「Pas trop fatigué」となった。話しかけているのが、サツキとメイであることを指摘して、このままでいいか確認することで、性数を一致させ、「fatigués」となった。

5 «arriver」という動詞がすぐあがったが、「nous arrivons」と聞こえず、「アリーヴ」と聞こえるということで、ひっかかった。「nous」にかわる表現で、3人称単数の«arrive»で活用するものがあったことを指摘すると、「on」があがった。「bien」が聞こえ、辞書で«tôt»を見つけて«bien tôt»としたので、それで一つの単語になることを言うと、「bientôt»を探し出した。こうして«On arrive bientôt.»となった。

今回学んだこと

- (1) 名詞に必ず冠詞をつけること。
- (2) 動詞の活用 vouloir。
- (3) 副詞 bien の使い方。
- (4) 形容詞の性数の一致の確認 fatigué(es)。
- (5) 副詞 trop の使い方。
- (6) 表現 de rien。
- (7) 「わたしたち」という意味で用いられる on の用法とその際の動詞の活用形。
- (8) 語彙 bientôt。

メモ

たとえば、「de rien」という、ぴったりあてはまる表現が見つかったりすると、嬉しそうである。楽しんで辞書を引くことができるようだ。

第2回 2000年5月1日

文法復習 冠詞

国名・町の名と前置詞

Mei : Papa !

Satsuki : Cache-toi !⁶

Ah ! J'ai cru c'était un policier.⁷

Un courier : Bonjour !

6 「カセットワ」から«cacher」という動詞が導き出され、「隠れて！」と言っているようだというので、「se cacher」が提案され、命令法に活用させて«Cache-toi !»となった。肯定命令の時の人称代名詞の位置、er 動詞2人称単数の命令法で«Cache-toi !»の«s」がとれることを確認した。

7 メイとサツキが車のなかで隠れたけれど、隠れなくてもよかったという状況から「お巡りさんかと思ったのだろう」ということで「お巡りさん」「policier」という単語が見つかった。「c'est policier」、冠詞を確認することで、「c'est un policier」となって、そのように聞き取ることができた。前半部は「思った」ということで、「誰が思ったか?」「私」、ということで、主語が«je»となり、「croire」を用いて«je crois」としたが、そうは聞こえず、「思った」だから過去では、ということになり、活用表を参考にしながら、「j'ai cru」を導き出した。「J'ai cru c'est un policier.»で«que」が省略されている、あるいは、聞こえないのだろうということになった。

さらに、前期の終わりに、これまでメモしたノートをパソコンに打ち込むことを課題とし、後期の第1回目に復習した際、「c'est un policier」でなく、「c'était un policier」と言っていることがわかり、時制の一致を確認した。また、サツキの「アーッ」という間投詞も、単語として書き加えることになった。

今回学んだこと

- (9) 代名動詞の命令法 cache-toi。
- (10) er 動詞の二人称単数の命令形では、語末の s がとれることを確認。
- (11) 肯定命令の場合、人称代名詞（再帰代名詞）の me, te が、moi, toi になることを確認。
- (12) 冠詞の確認 c'était un policier.。
- (13) 動詞 croire の過去分詞 cru の確認と、複合過去形の復習。

- (14) je crois que 等の時会話で que が聞こえなくなることもあること。
 (15) 主節と従属節の時制の一致 J'ai cru que c'était un policier.

第3回 2000年5月8日

文法復習 形容詞 (一般)

形容詞 (特殊)

beau, nouveau, vieux

Papa : Allons petit !⁸ Est-ce que tes parents sont là ?⁹ Je voudrais les voir.¹⁰

Un garçon : Mon père est là-bas.¹¹

Papa : Merci beaucoup. Ohé ! Bien bonjour !¹² Je suis votre nouveau voisin Monsieur Kusakabe.¹³

Un voisin : Bonjour ! Bienvenu dans la région !¹⁴

Papa : Merci.

8 「アロンプティ」、《allons》、《petit》という語はすぐにあがったが、《aller》の命令形がここにあらわれる理由がわからず、辞書で確認して、《allons》の間投詞的用法を見つけだした。《petit》に関しても、子供へ呼びかけるときに用いられることを初めて知った。

9 《Est-ce que》と「ソンラ」という音はすぐに聞こえた。「テバラ」という音も聞こえ、何か聞いているということになり、少年の答えとそのあとのお父さんと近所の人やりとりから、「お父さんはいるかい」という言っているのでは、ということになったが、《votre père》、ではないということになり、「テ」の音と《p》の音を聞き、複数形の《tes》と言うことで、お父さんではなく両親、《tes parents》が出てきた。《Est-ce que tes parents sont là ?》、辞書で場所を示すアクサングラーヴのついた《là》を見つけ、《Est-ce que tes parents sont là ?》で落着。

10 《Je voudrais》は《voudrais》、《je voudrais》と活用を辞書で確認しつつも、割合早く書き取ることができた。《voir》も聞こえ、「君の両親に会いたい」といっていることがわかり、二回目以降は目的語は

省略せずにどんどん代名詞で置き換えていく傾向があることを説明すると、人称代名詞を一生懸命探し、3人称複数の《les》があがり、《Je voudrais les voir.》となった。聞いてみるとその通りに聞こえた。

11 《Mon père est ラバ》、と聞こえ、《là》は出てきたが、《bas》に関しては「低い」という意味の《bas》が出てきて《là bas》となり、落ち着きが悪い。「ラバって一語かもしれない」というと、辞書に《là-bas》という表現を見つけて落ち着いた。アクサングラーヴ再度確認。手で(腕で)左から右へおろして「こっち?」と言いながら、書き込んでいた。

12 「オーエー」というお父さんの呼びかけも、探してみると、辞書に《ohé》「おーい」という呼びかけがあることがわかった。「ビヤンボンジュール」については、《bien》でいいのだろうかと思ったが、《v》の音の《viens》には聞こえないので、こういう言い方もあるのかということになった。《b》と《v》の音が、日本人には特に聞き取りにくいので、注意が必要であることを喚起した。

13 「ジスイ」、《Je suis》、《Monsieur Kusakabe》がまず聞こえ、自己紹介しているのだろうということになり、何というのだろうと考えていると、《v》の音を聞き取った学生が、《voisin》を見つけ、さらに続けて、《nouveau》も見つけてしまった。これは、「今日の文法の復習」で扱った形容詞である。もう一度文法テキストを見直して確認した。

14 「ビヤン」、「レジ」は聞こえたが、よくわからない。おじさんはなんと返事しているのだろうと考え、「ようこそ」みたいな意味ではないかということになり、和仏で《bienvenu》が見つかった。次に「どこへ」ということになり、「私たちの村」ではないかということになり、《ville》、《village》があがったが、聞こえてくる音と違うので、しばらく考え込んだ。《ré》の音から《région》を見つけだした学生がいて、《Bienvenu la région !》となったが、まだ何か音が聞こえてくる。「もう一つ、前置詞があるかもしれない、どこへようこそだろう?」と聞くと、《à》かな、ということになり、さらに聞き返して、《dans》が聞こえてきた。

今回学んだこと

- (16) aller の間投詞的な用法 allons。
- (17) 空中に「こっち！」と書かないですむよう、アクサングラーフという言葉の繰り返し用いた。
- (18) 単語の繰り返しを避けるため、代名詞が頻用されることを確認 Je voudrais les voir。
- (19) 語彙 la-bàs。
- (20) «b» と «v» の音を意識的に聞くことの必要性を説明。
- (21) 語彙 région。
- (22) 語彙 bienvenu。

第4回 2000年5月15日

文法復習 指示形容詞 所有形容詞
疑問詞

- Papa : Merci petit ! À bientôt !¹⁵
 Papa : Tout le monde descend.¹⁶
 Mei : Hé ! Attends-moi !¹⁷
 Papa : Hop !¹⁸
 Satsuki : Mei, viens voir le ruisseau !¹⁹
 Mei : Un ruisseau !
Qu'est-ce que c'est, ces petits poissons ?²⁰
 Satsuki : Je sais pas. Des poissons rouges peut-être.²¹
 Papa : Alors, ça vous plaît, les enfants ?²²

15 «bientôt» から、辞書をひいて «à bientôt» という表現を知った。アクサンシルコンプレックスを確認。

16 「トルモンデサン」、状況から「降りる」という語を調べはじめ、「descendre」を見つける。「トルモン」はわかりにくかったようだ。「みんな」くらいの意味だろうということで、和仏から «tout le monde» という言い回しを発見、「Tout le monde descendent」と «d» の音が聞こえないことで、「tout le monde」が3人称単数扱いであることを確認した。「descendre」の活用も復習した。

17 「エ」という語もあるかもしれない、という

ことで、辞書に «hé» を確認。「アタンムワ」は、メイが「待って」といっているに違いないということで «attendre» を和仏で確認し、「Attends-moi」となった。「attendre」の活用を確認した。

18 「オッフ」もあるかもしれないということで、和仏で «hop» を見つけた。

19 メイに「おいでよ。…だ」と言っている様子と同映像から、「viens」と「川」があがり、和仏でいろいろ川を見つけた。「r」の音が聞こえることから «rivière» があがったが、どうも違うと言っているところで «ruisseau» が出てきた。「ヴィヤンヴォア」という音から «voir» が指摘され、「Viens voir le ruisseau」となった。

20 「ケスクセ」、音と意味は知っていたが、綴りを確認した。「セプティプワ」で «c'est»、「ces»、「petit」があがり、小川に黒いものが泳いでいるので「お魚だ」ということになり、「魚」を和仏で確認。「ces petit poisson」、数を一致させて «ces petits poissons」となった。

21 「ジュセパ」、「ne」を省略した «je sais pas» については、何度か耳にしたこともあったので、すんなりと出てきた。「peut-être」もそれほど難しくはなかった。「～かもしれない？」と言っているところから、何だろうということになり、「des poissons」はどうにか聞こえて、何度か聞き直して、「rouge」が出てきた。「poisson rouge」が「金魚」であることをここで覚えた。

22 「アロー」は、電話の «allô» になってしまうので、ほかの「アロー」を探させ、「alors」が出てきた。次は、皆が、「s'il vous plaît」と聞き取ったので、「何を頼んでるの」と問いかけ、「plaît»、「plaire」の意味を確認させた。その結果「気に入ったかい？」と言っているということになり、主語を考えた結果、「c'est»、「ça»、「cela」等があがり、聞き直した結果、「ça vous plaît」が出てきた。「les enfants」については、子供たちへの呼びかけに、このような言い方もすることを知った。

今回学んだこと

- (23) 表現 à bientôt。
 (24) 山形印 ^ をアクサンシールコンプレックスと呼ぶこと。
 (25) 表現 tout le monde と、これが単数扱いであること。
 (26) descendre の活用確認。
 (27) 間投詞 hé。
 (28) Attends-moi! という表現はそのまま耳に残った。
 (29) 間投詞 hop。
 (30) 語彙 ruisseau、rivière をはじめ、「川」を表す様々な単語があること。
 (31) 綴り Qu'est-ce que c'est?。
 (32) 「今日の文法」で復習した指示代名詞 ces の用法。
 (33) 語彙 poisson。
 (34) 数の一致 ces petits poissons。
 (35) 語彙 poisson rouge。
 (36) 語彙 Alors とその用法、Allô との違い。
 (37) 動詞の活用 plaire と、アクサンシールコンプレックスの使い方について。
 (38) 子供たちへの呼びかけに用いられる les enfants! という表現。

メモ

音だけでなく、映像や、背景を知っているということも、会話や聞き取りに重要な要素であることを、実感しているようである。

第5回 2000年6月19日

文法復習 人称代名詞

中性代名詞 le, y, en

- Satsuki : C'est formidable!²³
 Mei : Oui, formidable!
 Satsuki : Dépêche-toi, Mei, viens vite!²⁴
 Papa : Faites attention!²⁵
 Satsuki : Ah, c'est la maison...²⁶
 Mei : Ah ah ah! Papa, viens ah ha ha ha ha ...
 Satsuki : Dépêche-toi!

C'est une vieille maison.²⁷

Mei : Oui, une vieille maison.

Satsuki : Elle peut être hantée.²⁸

Mei : Gwaaaaa...

Satsuki : Je sens qu'on va bien s'amuser ici.²⁹

23 「セフォーミダブル」という音が聞こえ、サツキが呆然と見とれている状況から、「なんて言っているのだろうか?」と考え、「すごい!」とかそんなことを言っているのだろうかということで和仏をあたると、「formidable」が見つかった。「ces」、「cet」等、書いているうちに、「c'est」があがった。

24 «Dépêche-toi!» は、割合、すんなり聞き取ることができた。er動詞の2人称単数命令法の時に、語末の「s」がとれることを再度確認。つぎの「ヴィヤンヴィト」は、「ビヤンビト」と聞き取って、「viens」、「ヴィト」のほうは、仏和の「v」の項目を探して、「早く」という意味の「vite」を見つけだした。「b」と「v」の音について、繰り返し注意を促した。

25 「フェタタンシオン」、「アテンション?」ということになり、辞書で«attention»を確認して«faites attention!»という例文を見つけだした。

26 まず、「maison」が聞こえ、「C'est maison.」、「C'est une maison.」となったが、「une」の音が聞こえず、冠詞を注意しながら聞くことで、定冠詞女性形の«la」が聞こえてきた。「家だ!」と、目の前にある家をさして、「そこにまさしく存在する家」、「圧倒的な存在感をもって目の前にある家」というニュアンスで、たとえば初めて海を目の前にして、「C'est la mer!»という感動を持って、海を認識するように、この家も、「ほかのなにものでもない、家、がある」、あるいは「私たちが今から住むことになる家が目の前にあらわれた」という感覚だろう。ただし、海は一般には«la mer」だが、家はふつうは«une maison」となることを付け加えた。

27 «Dépêche-toi!» に関してはすでに問題なし。次は「セテュヌヴィエメゾン」と聞こえ、「c'est une」、「maison」まで聞こえた。「古い家」だということで、和仏を参照しつつ、「vieux」が提案され

たが、音が一致せず、「maison」が男性名詞か女性名詞か考えさせた。結果、女性名詞と言うことで、仏和で「vieux」をひき、女性形の「vieille」を導き出した。文法テキストを参照して復習した。

28 「プーテートル」が聞こえたが、「hanté」などという単語は知っているはずもない。「peut-être」では、文に動詞グループがなくなってしまうので、ここが動詞グループだということを理解させた。後は、主語と目的語、あるいは属詞である。主語を考えていくうちに、名詞では短すぎるので代名詞ということになり、「il」、「elle」があがった。「今なにが話題になっているか」を考え、「maison」、従って「elle」ということになった。「Elle peut être ...」。「古い家を前に子供たちが、～かもしれないと言っているとしたら」というヒントで、「幽霊」ということになり、和仏をあたって「fantôme」等々があがったが、そのうちに「hanté」という語が見つかり、「Elle peut être hanté.」、性数の一致で、「Elle peut être hantée.」となった。

29 「ici」以外はほとんど聞こえず苦勞した。「シュサン」と聞こえることから、主語を探すことにし、主語は「je」で確定。動詞を探し「サン」から「sentir」が提案された。～だと思ふとサツキが言っていることと、メイとサツキの楽しそうな様子、「サムゼイスィ」の音をヒントにしばらく待つうちに、「amuser」、「s'amuser」があがり、「Je sens bien s'amuser ici.」となった。しかし、このままでは文として成り立たないことから、「je sens que」となることを説明し、「s'amuse」と活用した形でなく、不定詞の「s'amuser」と聞こえることから、あいだに入るものを繰り返し聞いた。結局、聞き取れないようなので、「qu'on va」が入るはずだと説明し、何度か繰り返し聞き直した。

今回学んだこと

- (39) 語彙 formidable.
- (40) 子音の «b» と «v» の聞き取り。
- (41) 表現 Faites attention ! 。
- (42) 定冠詞の使い方 C'est la maison ! 。

- (43) 形容詞 vieux と vielle 再度確認。
- (44) 動詞グループを中心とした文の構造をつかむこと Elle peut être hantée.
- (45) 語彙 hanter, hanté(es).
- (46) 不定詞を従える動詞 aller + inf.

第6回 2000年6月26日

文法復習 関係代名詞

qui, que, où, dont

関係代名詞

前置詞+関係代名詞, lequel ...

- Mei : Hé ! Attends-moi !³⁰
- Satsuki : Cette poutre est pourrie.³¹
- Mei : La maison va s'écouler.
... oui, ... et voici...³²
- Satsuki : Mei, regarde ça !³³
- Mei : Quoi ?³⁴
- Satsuki : Cet arbre !³⁵
Je n'ai jamais vu un arbre si grand.³⁶

30 メイの「Hé ! Attends-moi !」は、二回目なので、すぐに聞き取ることができた。「attendre」の活用については辞書、あるいは以前のノートを確認していたようである。

31 状況から、「柱が腐っている」と言っているのだろう、ということで、「柱」を調べ、「poutre」が見つかった。女性名詞なので「cette poutre」、「腐っている」は「pourrir」を見つけ、「est」が聞こえるので、形容詞の「pourri」、主語が女性形であることから、「pourri」が、女性形の「pourrie」となることを確認した。

32 ここは、メイの片言の話し方もあって、ほとんど聞こえなかった。仏会話を受講している学生もいるので、翌日の会話の時間にフランス人の先生に尋ねてみることを提案した。

確認の結果、「La maison va s'écouler.」、次は何をいっているかよくわからず、「... et voici」までを確認してきた。フランス人講師と一緒にビデオを楽しむことができたようで、まだ、見ていない先まで

教えてくれようとして、それを止めるのが大変だった、と学生たちが報告してくれた。最終的に出来上がったら、また確認してもらおうということになった。

33 大きな木を前に、サツキがメイに「見て！」と言っていることはすぐにわかるシーンである。「regarde」はすぐでてきたが、まだ、「ça」の用法には慣れていないようで、「この木を見て！」«cet arbre」とは聞こえず、「これ見て！」の「これ」を探しつつ、やっとで「ça」が出てきた。

34 「えっ、何？」と言っているようだ。「クワ」という音から、辞書 «c» の項と «qu» の項を調べて «quoi» が見つかった。「que」と «quoi» の使い方の違いについて確認した。

35 「セツタルブル」、「木だ！」ということで、「c'est arbre」があがったが、この文だと冠詞が必要なことを指摘、しかし、「c'est un arbre」と聞こえないことからもう一度考え直し、「この木！」«Cet arbre!»が出てきた。

36 これもかなり聞き取りにくかったようである。「un arbre ... スイグラール」で始まったがなかなか聞こえない。主語は «je» ということになって、「je ... un arbre ...」。そのうち «jamais» が聞こえてきて、「ne .. jamais」を復習。「vu」の音が聞こえてきて「見たことがない」と言っているということになり、「vu」の過去分詞から、複合過去であろうということになり、「je n'ai jamais vu un arbre」までを確認。「こんなおっきな木を見たことがない」と言っているにちがいないということで「大きい」という単語を和仏で探しはじめ、「grand」、「gros」、「massif」、「volumineux」、「large」、「gigantesque」、「immense」、「spacieux」、「vaste」等があがった。「スイグラール」の「スイ」の音でひっかかっていたが、結局、「grand」ということになった。そのあと、「こんなに」に当たる語を探したが、「aussi」、「très」等々、なかなか見つからず、時間も迫っていたので、「si」を提案し、辞書で確認、さらに聞き直して確認した。

今回学んだこと

(47) 語彙 poutre, pourrir, pourri(es)。

(48) フランス人講師に質問する。

(49) 代名詞 ça の使い方。

(50) 疑問代名詞 que quoi の確認。

(51) 副詞 si の用法。

メモ

簡単な言い回し（今回だと Hé ! Attends-moi !）は、二度目になると、だいたい耳に残っているようである。一方、綴りや活用は何度も繰り返すしかない。

第7回 2000年7月3日

文法復習 関係代名詞

qui, que, où, dont

関係代名詞

前置詞+関係代名詞, lequel ...

Mei : Atchoum !³⁷

Satsuki : Papa, y a un arbre géant en face de la maison.³⁸

37 メイのくしゃみにあたる擬音語を和仏で探したが見つからなかった。前年に、*Emilie Jolie* の CD をを教材にした際、「青いウサギ」のページで、ウサギたちがくしゃみをしていたので、そのときのテキストに、「atchoum」の綴りを探した。

38 これも «un arbre» 以外はかなり聞き取りにくかったようである。「イア」で始まっているけれど、「イ」って何だろう？ と聞くと、「il」があがり、「il y a」だということになった。「il y a」が会話のなかでしばしば «y a» となることを説明した。「y a un arbre ... la maison」となったが、「大きい」という意味の «géant» が和仏でもなかなか出てこない。「en face de」についても、状況から「家の前に」と言っていることはわかるのだが、「avant」、「devant」といった具合で浮かばない。1年、2年で何度も練習した言い回しなのだが、熟語になると少し弱いようである。結局、「アナルブルジェアン」から、「g」の音をたどり «géant» が、「アファスト」から «face» が出てくるのにかなりの時間を要した。

見つかったときは嬉しそうだった。

今回学んだこと

(52) atchoum! の綴り。

(53) il y a → y a の省略。

(54) 語彙 géant。

(55) 表現 en face de。

メモ

辞書をひくなかで、ぴったり当てはまる単語、特に熟語が見つかったときは、非常に嬉しそうである。

第8回 2000年7月10日
文法復習 指示代名詞・所有代名詞
形容詞・副詞の比較級・最上級

Papa : C'est un camphrier.³⁹
Satsuki : Un camphrier !
Mei : Un camphrier !
Papa : Attention !
Satsuki : Oh ! Un gland !⁴⁰
Mei : Ah ! Moi aussi j'en veux un.⁴¹
Satsuki : En voilà un autre.⁴²
Mei : Aaaa... Oh ! Ça y est, moi aussi, j'ai un gland !⁴³ A...
Papa : Mei, j'essaie d'aérer la maison, alors ne reste pas là.⁴⁴

39 「お父さんは木の名前をいってるよね」という間もなく、「私これ知ってる、クスノキだ」という声があがり、和仏で「クスノキ」を見つけて、「C'est un camphrier.」と、なんとなく落ち着いた。

40 やはり、映像から「ドングリだ」ということになり、和仏で「ドングリ」を見つけて、「un gland」となった。私の方が逆に、「木の実」の「un grain」と勘違いしていた。

41 «Moi aussi» はすぐに聞こえた。「je veux」と言っていることもわかった。「私もドングリがほしい」と言っているはずだから、「je veux un gland」となればよいのだが、そうは聞こえない。フランス

語は同じ単語を繰り返さずにどんどん代名詞で置き換えていくことと、文法のテキストを参照しつつ、前に復習した中性代名詞がここで使えるかもしれないことを示唆した。文法のテキストを繰って、中性代名詞 «en»、«y»、«le» のうちの «en» ということになり、「Moi, aussi, j'en veux.」。もう少し聞こえるので、繰り返し、日本語だったらどういふかも考えながら聞き直した。「私もほしい」、「私も一個ほしい」と考えていくうちに、中性代名詞 «en» は、数詞を残すことに思い至り、「Moi aussi, j'en veux un.」となった。

42 「ああ、またあった」というようなことを言っていることはわかったが、かなり聞き取りにくかった。「voilà」という表現にあまり慣れていないことと、文頭がひどく早く省略されがちなこともあるようだ。ドングリを手にとり、「... un gland.」と言っているのかと考えたが、そうは聞こえない。名詞は繰り返さないことを再度確認して、なんて言っているのか考えた、「アノートル」から、「notre」もでたがじっくりこない。もう一つとかそんな意味で調べていくうちに «autre» があがり、「un autre」となった。「あっ、もう一つあった」位の意味で、「Voilà un autre.」となり、「voilà」のアクサン グラ ヴを確認、さらに、「En voilà un autre.」となったのは、レポート提出後である。

43 「サイエ」は、聞き慣れているらしく、すぐに «Ça y est.」という綴りを和仏で確認した。「moi aussi」については、問題なく聞き取れるが、そのあとがひどく聞き取りにくく、かなり苦労した。もう一度後で聞き直すことにしていったん先へ進んだ。しかし、授業の最後に、聞き直してみると、「ジェアグラール」、「j'ai un gland」と何でもないことをいっていることがわかった。

44 「メイ、シェスユイドレラメゾン、ヌレスパラ」というように聞こえたようである。「Mei, je ... la maison ...」で何度も聞いた。そのうち «pas là» が聞こえ、「là」のアクサン グラ ヴを確認。否定ということで «ne ... pas là」、間に「レスト」という音を聞き分け、「ne reste pas là」、さらに、「alors」

まで聞こえ «alors ne reste pas là» ここで、ほとんどお手上げ状態、その日の範囲を聞き直した。

この箇所については、夏休み中に確認、レポート提出後の授業で説明した。

今回学んだこと

- (56) 語彙 camphrier。
- (57) 語彙 gland。
- (58) 中性代名詞 en の復習。
- (59) notre と un autre の聞き分け。
- (60) アクサングラヴの確認 voilà
- (61) 綴りの確認 Ça y est !。

メモ

映像を目にすること、たとえば、木を見てすぐに楠であることがわかるように、会話なり聞き取りなりに、まわりの状況が大きな役割を果たしていることが、今回もよくわかった。

第9回 2000年7月11日

文法復習 avoir, être の直説法現在
超不規則動詞の直説法現在
avoir, être, faire, aller, dire

- Mei : Un gland !
Satsuki : Regarde papa, j'en ai aussi, y en a plein dans la maison.⁴⁵
Mei : S'ils y laissaient tombés.⁴⁶

45 «Regarde papa, j'ai aussi ... la maison.» がまず聞こえた。さらに、何をもっているかということで «en» が入り、「j'en ai aussi ... la maison」、家の中で «dans」、家の真ん中で «au milieu de」、«en plein de» の可能性を考えて聞いてみたが、「アラブランドラメゾン」と聞こえ、どれもうまく入らず、とりあえず «Regarde papa, j'en ai aussi en plein de la maison.» として後日に持ち越した。レポート提出後、「y en a」が聞き取れていなかったことを確認し訂正した。

46 「ズィエテトンベ」と聞こえたが、これにつ

いてもかなり難航した。「トンベ」という音から «tomber»、«tombé» があがり、「エテ」は半過去ではないかと言うことで、「était»、«étaient» があがり、「ズ」と濁っていることから «étaient tombé» だろうということになり、主語は「どんぐり」なので «ils» となって、「ils étaient tombés」となった。アクサンテギュと «tombé» の複数の «s» を確認。さらに「ゼテ」でなく「ズィエテ」と聞こえることから、何が入っているのか考え、「そこに」という場所だろうということになり、「ils y étaient tombés」、文頭を何度も注意深く聞いたことと、文のなかの、半過去、大過去から、「comme si」が提案されたが «comme» の音が聞こえないことからさらに聞き返し、「si」となった。「落ちてみたい」、「落ちてきていたのだとしたら」のような意味だと、次のお父さんのせりふとつながることになるようだとすることで、「S'ils y étaient tombés」とした。レポート提出後、「S'ils y laissaient tombés。」と訂正した。

今回学んだこと

- (62) 『朝倉文法事典』を紹介。
- (63) アクサンテギュ確認。

メモ

辞書を引くことには最初から抵抗はなかったようだが、最近はかなり使いこなせるようになってきた。

第10回 2000年7月14日

文法復習 -er 型動詞の直説法現在
-ir 型動詞の直説法現在

- Papa : (...)
Il doit y avoir des écureuils ici.⁴⁷
Satsuki et Mei :
Des écureuils !
Papa : Oui, ou bien, un autre animal, des souris, peut-être.⁴⁸
Satsuki : Des souris !

Mei : Ah ! Je préférerais que ce soient des
écureuils !⁴⁹

47 ドングリが落ちていて、子供たちが喜びそうな動物という状況から、「リスだ」という声があり、和仏で「écureuil」という語がすぐに見つかった。発音はかなり難しいようで、何度も繰り返した。また、「ici」という単語はすぐに聞き取ることができた。「イ」の音で始まっていることから、「il y a」が類推され、「il y a des écureuils ici.」となり、さらに、お父さんが、「リスだよ、リスかもしれない、リスにちがいない」とたどって、「d」の音から「doit」音を聞き取り、「Il doit y avoir des écureuils ici.」となった。

48 «Oui» および «peut-être» は、すぐに聞き取ることができた。子供たちがいやそうな顔をしていることから「ねずみだ」ということで、辞書から«souris»を見つけた。「オビヤン、ノートルアニマル」と聞き取り、「bien」の項目で「あるいは」という意味の«ou bien»を見つけた。「ノートルアニマル」については、「animal」、「notre animal」、「autre animal」等があがったが、「notre animal」では「私たちの動物」となり、意味が通じない。「autre animal」では、聞こえてくる«n」の音が解決しない。「autre」が形容詞であることを指摘し、「冠詞があるね」というと、すぐに、不定冠詞«un»が見つかり、「Oui, ou bien, un autre animal, des souris, peut-être.」となった。

49 このメイの言葉はかなり聞き取りにくかった。とりあえず、「des écureuils」はどうにか聞こえるのだが、そこから先がなかなか聞こえない。「メイちゃん、なんて言っているんだろう」と聞いていると「リス」、「リスがどうだって?」と考えさせたと、「接続法も入ってる、動詞が二つある」と、ヒントを出した。そのうち「リスの方がいい」という意味かということになり、「～の方がいい」という表現を探し始めた。「vaux mieux」があがったが、そんな音は聞こえない。ほかにどんな言い方があるか。「動詞二つ、～であることの方がいいんだね」

という繰り返しのなかで«aime mieux」、しかし、やはりその音も聞こえない。「英語にもあるんだけど」というが、英語を使つての説明はあまり好きではないようだ。「主語は?」と聞くと、どうも«je»のように聞こえる。「je」のあとに動詞があるのだけれど、ということで«p»の音がようやくあらわれ、「préférer」という動詞が見つかり、「je プレフェレ ... スワ des écureuils !」、«c'est»の接続法、複数形ということで、活用表を参考にしながら、「ce soient des écureuils」。さらに、「je préfère」と聞こえないことから、「リスの方がよかった」と過去形ではないかということで、辞書の活用表を参考に、「je préférerais」が出てきた。

今回学んだこと

- (64) 語彙 écureuil.
- (65) 語彙 souris.
- (66) 語彙 ou bien.
- (67) notre → un autre.
- (68) 語彙 préférer とその活用(半過去形).
- (69) préférer que + 接続法.

メモ

みんな意欲満々なのだが、一回にほんのわずかしか進まない。早く「まっくろくろすけ」が出てくるところへたどり着きたい、いつたどり着けるかと頑張っている。

第11回 2000年7月14日

文法復習 -oir 型動詞の直説法現在
-re 型動詞の直説法現在

Un homme : Hé ! Vous pouvez me dire où je dois
poser ça.⁵⁰

Papa : Apportez-la par ici en attendant.⁵¹

Papa : Satsuki, veux ouvrir la porte de
derrière?⁵²

50 「ヴプディ、ドポゼサ」という音が聞こえ、

«vous»、«dire»、«ça」の語を聞き取ることができた。「dire」の活用を調べ始めたが、不定詞であることからその前にある動詞が「プ」、«pouvoir」となり、そこから«pouvez」と活用させた。「ドポゼ」という音は、かなり聞き取りにくく、大きな家具をもっているおじさんの様子から、「置く」という日本語と対応する動詞を探し始めた。「mettre»、«poser»、«déposer»、«placer」等があり、「poser»、あるいは«déposer」ではないかということになった。おじさんはどこに置こうかと重そうに言っていることから、「どこ」«où»という関係代名詞があり、「où aller?»という«où + 不定詞」の用法をみつけて、「Vous pouvez dire où poser ça?»となったが、「ドポゼ」の「ド」の音が解決せず。「poser»を«déposer」に変更して、「Vous pouvez dire où déposer ça?»となった。しかし、「ドポゼ」でなく「ドポゼ」と聞こえてくるため、なにかしっくりこなかった。いったんここで次に移って後で聞き返すことにしたが、もう一度、聞いて繰り返させてみると今度は、「ヴプヴェンディウドポゼサ」と言ったので、「ヴプヴェンディ」の「ン」について「ンってなんだろう？ 直接目的はどこに置こう、それで、それから間接目的は？」と尋ねてみると、「me」の音が出てきた。これで、「Vous pouvez me dire où déposer ça?»となった。「ne»、「me」といった音が、音節末の«e»がしばしばほとんど聞こえなくなることを、再度確認した。いったん、ここで次に移ることにし、後で聞き返すことにした。

この授業の最後にもう一度聞き返すと、今度は、「dois」の音がかすかに聞こえた。「dois poser ça」で、よりわかりやすい構文になり、「déposer」と聞こえなかった理由もわかった。また、先ほどの«ne»、「me」がほとんど聞こえなくなることを確認し、「poser」の前に«je」という音があるかもしれないと、さらに聞き直すと、「où je dois poser ça」という音を聞き取ることができ、「Vous pouvez me dire où je dois poser ça?»となって、気になっていたすべての問題が解決した。

51 「アポルテパリュスィアナタン」のような音

が聞こえ、仏和、和仏それぞれで«apporter」という動詞があがり、「パリュスィ」についても、すぐに«par ici」という表現を見つけた。「Apportez ... par ici, ...」となって、おじさんに向かって「こっちへ持ってきて」と言っているわけだから、「Apportez」と«par ici」の間は、「何を」ということになる。「タンス?」、「家具?」と調べたしたが、あいだの言葉があまりに短い。「日本語では、こっちへ持ってきてというけれど、フランス語では目的語を省略しない、そのかわりに?」とヒントを与えると「それ」、と代名詞を調べはじめ«la»を入れて聞いてみて落ち着いた。「アナタダ」はかなり難しかった。現在分詞、ジェロンディフの復習をし、さらに辞書の«en」のジェロンディフの項目を音読させて、それから、もう一度ディクテにとりかかった。「アナタダ、アタンドル?」という声があがり、「en attendant」という表現にたどり着いた。このままでは意味が通じないので、辞書でさらに«attendant」の項目を調べさせると、「とりあえず、さしあたって、今のところ」という意味が出てきて、「とりあえずこっちへ持ってきてください」という意味となり、うまくおさまった。

52 まず、「サツキ、ラポルトドデリエ」が聞こえた。と同時に「裏口あけて」と言っているという指摘があり、「la porte»、「derrière」が辞書で確認され、「Satsuki, ... la porte de derrière.」となった。次に「開ける」という語を調べるうちに、「ouvrir」が見つかり、聞き返すとその通り、「ouvrir」と聞こえた。活用させようとしたが、聞こえてくる音は不定詞のままなので、「peux»、「dois」といいながら、聞き返して«peux」の音を聞き取った。これで、「Satsuki, peux ouvrir la porte de derrière.」となり、「tu」の音が聞こえないことから、「シエパ」という表現が学生からあがったので、「je ne sais pas»、「je sais pas»、「sais pas」と主語が会話のなかで省略される例を説明した。

今回学んだこと

(70) 不定詞を従える動詞 pouvoir, devoir。

- (71) 語彙 mettre poser déposer placer。
- (72) 表現 où + 不定詞。
- (73) 文のなかで、je, ne, me, 等の音がほとんど聞こえなくなることを確認。
- (74) 語彙 apporter。
- (75) 表現 par ici。
- (76) 肯定命令のときの人称代名詞 Apportez-la。
- (77) ジェロンディフの復習 en attendant。
- (78) 表現 en attendant。
- (79) 語彙 porte de derrière。
- (80) 会話の際の省略 Je ne sais pas. → Je sais pas. → Sais pas. の説明。

メモ

三コマ続けての授業の二コマめが終わったところだが、休憩時間もビデオの続きをずっと見ている学生がいた。気持ちははやるが話は進まず、といったところ。

第12回 2000年7月14日

文法復習 代名動詞

非人称動詞

- Satsuki : Ah, ha !⁵³
- Papa : Allez, dépêche-toi.⁵⁴
- Mei : Ah, ha !
Attends-moi !⁵⁵ Attends ! Attends !
Attends-moi !
- Satsuki : ...
- Satsuki : Prête ?⁵⁶
- Mei : La salle de bain !⁵⁷
- Satsuki : Oui. Il y a rien là-haut.⁵⁸
- Papa : C'est la salle de bain là-haut?
- Satsuki : On a vu bouger quelque chose, papa !⁵⁹
- Papa : Un écureuil ?⁶⁰

53 「«ha»も見つかるかもしれない」ということで、«Ah !» はこれまでも出てきていたが、«ha» という語も辞書にあることを確認した。

54 «Allez !» «Dépêche-toi !» いずれもなんなく聞

き取ることができた。ここで再度、er 動詞と «aller» の2人称単数命令法の時に語末の «s» がとれることを確認した。

55 これについてもなんなく聞き取ることができた。«attends» の場合は、«s» をとらないこと、er 動詞と «aller» 以外の動詞の場合は、2人称単数の命令法の時の語末の «s» はそのままであることを再度確認した。

56 「プレ！」という音が聞こえ、辞書を探しはじめ «prêt» を発見。「プレト」と «t» の音が聞こえているという指摘と「いい？」と話しかけている相手がメイであることから、女性形の «prête» を採用。男性形、女性形を自然に自分たちで区別できるようになってきた。

57 「ラサルドバン」、「お風呂」とすぐわかり、綴りを辞書で確認した。

58 「イアラオー」の音が聞こえ、まず、映像が上を見上げているものであることともあわせて «haut» という単語がでてきた。次に「文頭にイと聞こえたら？」というとき、«il y a» という表現が出てきた。«Il y a ... haut.»、«en haut» ではないかと考えたが「ラオー」と聞こえるのでさらに調べていくと、«là-haut» という語とぶつかった。これで «Il y a ... là-haut.»。次に映像から天井になにもなかったの、「なにもない」という言葉を和仏で探し、«rien» を発見。«Il y a rien là-haut.» となった。話し言葉で «ne» がしばしば聞こえなくなることを指摘しておいた。

59 まず、«quelque chose, papa» が聞こえた。お父さんに「何かいた」と言っているわけだが、「いた」という動詞では見つからず、もう一度、まっくろくろすけがざわざわと動いている様を思い出させてみた。すると「動いた」という単語を和仏で探し、«bouger» という語を見つけだした。これは不定詞であることを指摘し、どうしたらいいか考えさせた。«pouvoir» も «devoir» も聞こえてこないため、だいぶ困っていた。英語の知覚動詞+原形不定詞のことを思い出させようとしたが、英語の説明はあまりうまくいかない。それでも英語の «see»+原形不定詞、

«hear»+原形不定詞の説明をして、英語の «see» はフランス語の «voir» というので、«vu»、«voir» の語がようやく出てきた。ここまできると «on a vu» という言い回しはすぐに出てきて、«On a vu bouger quelque chose là-haut.» となった。

60 «Écureuil」 「りす」と言っていることはすぐわかったようだが、綴りはまだ覚えていないようだった。冠詞は問題なく聞き取れていた。

今回学んだこと

- (81) 語彙 ha.
- (82) 2人称単数の命令形 er 動詞と aller.
- (83) 語彙 prêt(e).
- (84) 綴り salle de bain.
- (85) 文頭に «i» と聞こえたら、il あるいは il y a.
- (86) 語彙 là-haut.
- (87) 表現 ne~rien と ne がしばしば会話体で省略される (聞こえなくなる) こと。
- (88) 語彙 bouger.
- (89) voir + 不定詞の用法。

メモ

さすがに三コマめに入るとくたびれているようだった。しかし、結局のところ、終わりのチャイムを無視して、最後の文を聞き取ることができるまで学生たちが作業を続けるので、仕方なくこちらがつきあう羽目になった。

第13回 2000年7月15日

文法復習 命令法

直説法複合過去

(助動詞 être)

Satsuki : Je ne crois pas.⁶¹ C'était des petites bêtes noires,⁶² y en avait des milliers des milliers, plein partout.⁶³

61 «Je ne comprends pas.» と全員が一致した。「かなり近いけどちがう」、「意味を考えてごらん」と言っただけでしばらく待った。お父さんが「りすかい？」

と聞いているのに対し「私は理解できない」ではいま一つ落ち着きが悪い。「そうじゃない」という言葉を探し始めたがなかなか進まない。「Je ne comprends pas.» の «comprends» の音はヒントになるかもしれない、その音で始まる、と言ってみると «croire» を見つけだし、活用表を見ながら «Je ne crois pas» を完成させた。

62 この文は「デミイエデミイエ」という音がまずきれいに聞こえていたが、それがどういう単語なのかは思い浮かばなかったようである。そこで、文の最初から聞いていった。「セテ」「デ des」「プティ«petit»」「ベート」「ノワール«noir»」がまず聞こえ、「セテ des petit ... noir」から始まった。「黒いちっちゃいもの？ 生き物？ 動物？」と言いながら辞書をくするうちに «bête» という語を見つけて「動物だ」ということになり、「des petit bête noir」。「セテ」は、「cette」をまず思いついたようだが、それでは「この」、「その」という意味にしかない、と言うと、「それは？ エテは半過去形？」と言いながら、「étais」と «était」とで迷っているようだったので、「ce」が3人称の指示代名詞で「それは」にあたることをここでもう一度確認し «c'était» に落ち着いた。こうして «C'était des petit bête noir.» という文になったが、ここで「プティ」 と «t» の音が聞こえるという指摘から、「bête」が女性名詞であることを確認、「noire」もということになり、さらに、冠詞の «des» に注意を促すことで、複数形の «s» がそれぞれ、「bête」、「noire」、「petite」の順についていき、ようやく、「C'était des petites bêtes noires.» にたどりついた。

63 そこで先ほどの「デミイエデミイエ」という音に戻ってきたが、まだわからない、「プランパットゥー」はなにか聞き取れて、辞書から «plein»、«partout» を見つけることができた。「あっちこっちいっぱい」と言いながら、「デミイエデミイエ」にまた戻ってきた。サツキの動作と、さっきの「まっくろくろすけ」がざわざわと移動していたようすから、「ざわざわ」、「うじゃうじゃ」、「うようよ」という言葉を和仏辞典で調べたが、これにあた

る表現は見つからず、「たくさんいる様子」、「フランス語は、擬音語、擬態語は少なく、割合、具体的な表現をすることが多い」というヒントを与えて待っていた。「des」という冠詞にかなり慣れてきていたせい、そのうちに「m」の項を調べはじめ、「mille」のあたりでみんなが考え込んでいた。「そのページは近い」と励ましているうちに「millier」の項に当たり、さらに「des milliers」という言い回しを見つけだした。「des milliers des milliers, plein partout.」までたどり着いたが、まだ、何かほかの音が「noires」のあとに「ノワラヴェ」と聞こえてくる。「C'était des petites bêtes noires, des milliers des milliers, plein partout.」動詞も冠詞も形容詞も入りようがないので、「a」ではじまる前置詞でも探すことにする。ただし「à」だけではないようだとりあえずヒントを与えておいた。「avec」という声があがり、聞き直してみると、聞こえるようだということで、「C'était des petites bêtes noires avec des milliers des milliers, plein partout.」に決定した。

レポート提出後もう一度聞き直したが、まだ落ち着きが悪い。9回目の「y en a」という音が聞き取りにくかったことを喚起してもう一度確認。「y en avait des milliers des milliers, plein partout.」に落ち着いた。

今回学んだこと

- (90) Je ne comprends pas. と Je ne crois pas.。
- (91) croire の活用。
- (92) 語彙 bête.
- (93) 指示代名詞 ce の用法 c'était.
- (94) 名詞・形容詞の性数の一致 des petites bêtes noires の確認。
- (95) 語彙 plein, partout.
- (96) 表現 des milliers des milliers.

メモ

授業の初めに、「アクサンテギュってどんな綴りですか?」という質問がでた。「aigu」の綴りをいう

と、「accent aigu」の「テ」という音がリエゾンだったことに気づき、「aigu」を辞書で確認することによって、「鋭い、高い」という意味を再確認した。さらに例文のなかに「accent grave」を見つけて「低いんだ」と、皆で納得していた。出てくるたびに、「アクサンテギュ」、「アクサングラヴ」、「アクサンシルコンプレックス」と繰り返していた甲斐があったという気がした。

第14回 2000年7月15日

文法復習 直説法複合過去

(助動詞 être)

過去分詞の一致

Satsuki : Alors ?⁶⁴

Papa : À mon avis⁶⁵, vous avez vu des noiraudes.⁶⁶

Satsuki : Quoi, de vraies noiraudes ?⁶⁷
Comme dans un livre d'image ?⁶⁸

Papa : Oui, ça ne peut pas être un fantôme, il fait jour.⁶⁹

64 二回目になるのだが、「アロー」という音から、「Allô !」という呼びかけの表現をまた思い浮かべたようである。それは電話での「もしもし」という呼びかけだということ、父親が、風呂場をのぞいて考えている様子を、メイとサツキがうかがっている様子と考えあわせ、辞書を探して、「Alors ?」という表現を見つけだした。

65 「アモナビ」と聞き取って、「À mon」まで聞き取ることができた。そのあと辞書をくって、「avis」を見つけだし、さらに熟語の項で「à mon avis」を見つけて、「僕の意見では」というがぴったり当てはまることを発見した。「b」と「v」が日本人の耳に聞こえにくいので特に注意を要することを再確認した。

66 前回、聞き取りに苦労した「on a vu」という音が耳に残っていたこともあって、「vous avez vu」をすぐに聞き取ることができた。「des」という不定冠詞も、これまで何度か出てきているので、「de」の

音でなく、不定冠詞複数の「des」であると、無理なく理解し聞き取っていた。「noiraude」については、「まっくろくろすけ」をフランス語で何というのか、楽しみにしていたのだが、「noir」という音がすぐに聞こえたようだ。そこで「ロード」にあたる単語を辞書の「r」の項で探し続けていた。「まっくろくろすけ」は一単語かもしれないと示唆すると、「noir」をたどって、「noiraud」を見つけだし、「d」の音が発音されていることから、女性形の「noiraude」「黒髪で褐色の肌の女の女の人」であることをつきとめた。「どうして女性なのですか？」という質問ができたが、どうしてなのだろう。

67 «Quoi」については、前々回に疑問代名詞の«Que」と«Quoi」についてとりあげたばかりなので、とりあえずはすぐに聞き取ることができた。さらに、直前にでてきたばかりの「noiraude」という語もすぐに聞こえたので、「Quoi de ... noiraude ?」となり、「ヴレ」って本当のという意味では、と辞書を調べた学生が«vrai」を指摘して«Quoi, de vraie noiraude ?」となった。「単数かな？ 複数かな？」と聞くと、前の文からまず名詞が«noiraudes」となり、「形容詞も一致させなきゃ」と言うので«vraie」が«vraies」となった。性数の一致に関しては、頭で理解はしているが、実際に自分で書くという段階になると、すぐに忘れてしまうので、今の段階では、出てくる度に注意を促すことが必要である。また冠詞と名詞の間に«vraie」という形容詞が入ったために«des」が«de」に変わることにしても、ここでもう一度復習した。

68 まず「ディマージュ」という音を聞き取り、「ディマージュ」の«d」の項と「マージュ」という音から«m」の項でさがしはじめた。「ディマージュって何だろうね。フランス語だよ」、「d」でも«m」でもないよ」とぶつぶつ言っていると「あっ、イメージーションだ」という声があがった。なるほど「ディマージュ」かということになり、ここで«d'image」をまず聞き取ることができた。繰り返し聞いているうちに、一人の学生が「絵本みたい」のようなことを日本語版で言っていたと言いだし、別

の学生が辞書のなかに«livre d'image」を見つけだして喝采をあげた。ここで少し行き詰まったが、「最初にどんな音が聞こえる？」とたずねると「カン、コン」«quand」と口々に考え込んだ。「カキクケコの音は«qu」だけじゃないよね？ もう一つは？」というので«c」の項を調べだし«comme」を見つけ「～みたい」ということで、「Comme un livre d'image ?」「絵本みたいに」で決定した。なにか他の音が聞こえているようだが、とりあえず意味が通じているのでそのままになった。

最後に全体を通して聞き直したときに、「絵本みたいに」でもいいけれど、「絵本のなかみたいに」だったらどうなるかと水をむけてみると、「dans」という声があがり、「dans un livre d'image」が聞こえるかどうか確かめてみると、確かに、「Comme dans un livre d'image ?」とリエゾンの«z」の音をはっきり聞こえることがわかり、居心地の悪さが解決した。

69 最初の«Oui,»のあとは、ほとんど聞き取れないようだった。「後ろから聞いてみよう」というので、«jour」が聞こえた。さらにこの文の最初に「イ」と聞こえた。これまでも、文頭にイときこえると、「il」であることが何度もあったので«il ... jour」が浮かび、天候の«il fait」という表現を思い出す学生と、「jour」の項から«il fait jour」を見つけだす学生が一致した。「夜が明ける、明るくなる」という訳語を当てたが、映画の設定は昼間でうまく当てはまらないので、「昼だ、明るい」ぐらいの意味にとっておいた。そのあとは難航し、「センプファン」をみんなで繰り返していた。繰り返し「知っている単語を一つでも聞いてごらん」と繰り返していると«être」を聞き取ることができた。「«être」は不定詞だよ。何で不定詞があるんだろ」と聞くと、「あーっ、ドウ、プー」と言いだした。前回の文法復習で、ちょうど«devoir», «pouvoir」の活用を復習したところだった。聞き直して«peut」あるいは«peux」に落ち着いた。「... peut être..., il fait jour.」である。学生は「プーテートル」と聞こえないことを気にしていた。ここで再び「センプエトルファン」

に取り組むのだが、主語の「センプ」と目的語あるいは属詞の「ファン」いずれもなかなかわかりにくいようだった。「お父さんは何で「il fait jour」なんて言ってるんだろう」、「今、何の話をしているんだろう」、「前で一回出てきたけれど」と繰り返していると、「アンテ「hanté」」という声があがった。印象的な単語だったようだ。「幽霊」という語を和仏で調べた学生が「fantôme」を見つけて、「... peut être fantôme, il fait jour.」までこぎつけた。「主語は何だろう」と聞くと「セ「c'est」」という声がばらばらとあがったが、「でも、動詞はもうあるよ」というと考え込み、「それはってなんて言う？「c'est」じゃないとしたら」と待っていると「サ「Ça」て、それですか？」という問いがでてきた。「Ça」、「Cela」が主語となることをもう一度説明した。ここで「Ça peut être fantôme, il fait jour.」となり、「名詞には冠詞がつくね」というと「un fantôme」とする学生と、それが男性名詞であることを辞書で確認する学生がいた。ここで、「Ça peut être un fantôme, il fait jour.」となったが、まだ何か聞こえる。そこでこの文の意味を考えてみた。「幽霊かもしれないね、昼だ（明るい）」ではどうもおさまりが悪い。「幽霊じゃないよ」と言っているのかも、という学生の声と、先ほどの学生が「プーテートル」と聞こえなかったと言ったことを指摘すると、「Ça ne peut pas être un fantôme, il fait jour.」となるはずだ、ということで、さらに聞き直すと、「ne」の音が「センプ」の「ン」と聞こえていたこと、「peut pas être」だから「プーテートル」とリエゾンしなかったことがわかった。

今回学んだこと

- (97) 語彙 alors 復習。
- (98) 表現 à mon avis.
- (99) 発音 «b」と«v」。
- (100) 語彙 vrai(e), noireaude.
- (101) 不定冠詞複数 des→deの規則について復習 de vraies noireaudes.
- (102) 性・数の一致確認 de vraies noireaudes.

- (103) エリズィオンしている語の聞き取り d'image.
- (104) 語彙 livre d'image, comme.
- (105) 前置詞の聞き取り dans.
- (106) 表現 il fait jour.。
- (107) 不定詞を従える動詞 pouvoir.
- (108) 語彙 fantôme.
- (109) 指示代名詞 ça, cela の説明。
- (110) 冠詞の確認 un fantôme.
- (111) 否定の ne がほとんど聞こえなくなることにについて確認。

メモ

休憩時間が終わると、すでに全員が文法問題にとりかかっていた。「どうしたの、休憩しないと疲れるよ」というと、「早くビデオにかかりたい」という返事が返ってきた。楽しんでくれているようだ。前の時間に「アクサンテギュ」の質問があったので、「アクサンシルコンフレックス」（これは学生には覚えにくいらしい）も辞書で確認した。「眉などがへの字に曲がった」という説明に納得して、ノートへの字の眉のある顔を書いてメモしていた。

第15回 2000年9月11日

文法復習 受動態

直説法半過去

Papa : On voit souvent des noireaudes quand on passe d'un endroit sombre à un endroit éclairé, parce que les yeux n'ont pas le temps de s'habituer.⁷⁰

70 かなり難航した。まず、「des noireaudes」、「カントンパス」、「sombre」（暗い）、「endroit」（場所）、「ダン」、「チュエ」という音を聞き取ることができた。「レジュ」から「les jeux」も拳がった。その前に「parce que」があることもわかった。「parce que les jeux ビチュエ」となり、お父さんが、「明るいから幽霊じゃないよ」と言っている続きであることもあわせて考えた。「On voit souvent des noireaudes

カントンパス dans un endroit sombre ... endroit
クレレ parce que les jeux ... パ ... ビチュエ。」とつ
なぎ、あいだを考えた。「On voit souvent des
noiraudes」からどんな時に「まっくろくろすけ」
が現れたかを思い出し、「暗いところから明るいと
ころへ行ったとき」と言うことになり、「quand on
passe dans un endroit ... un endroit 明るい」とな
って和仏辞典から、「éclairé」、「～から～まで」と
いうことで、「dans」ではなく、「de... à...」だとい
うことになり、「d'un endroit sombre à un endroit
éclairé」、「パス」から「passe」、「quand on passe」
となり、「On voit souvent des noiraudes quand on
passe d'un un endroit sombre à un endroit
éclairé.」、「parce que les jeux ... パ ... ビチュエ.」。
「目がなれないからじゃないか」ということになり、
「les jeux」が「les yeux」、「ビチュエ」が「アピチ
ュエ」、「サビチュエ」、「s'habituer」、「parce que
les yeux ... pas...s'habituer.」、「pas」があるので否
定文ということ、「parce que les yeux n'ont pas
タン s'habituer.」、「parce que les yeux n'ont pas le
temps de s'habituer.」と、一文聞き取って終わりにな
った。

今回学んだこと

- (112) 表現 de...à...
- (113) 語彙 endroit
- (114) 語彙 sombre
- (115) 語彙 éclairé
- (116) 語彙 s'habituer

結び

半年の授業の記録である。

『となりのトトロ』という、皆が好む、日本の数
あるアニメ映画のなかでも非常に質の高い映画を教
材として用いることで、予想以上に学生を引きつけ
ることができた。加えて、この映画が、教材として
すぐれている点は、参加者にとって全く文化的背景
の違う別世界の話ではなく、共通の経験認識がある

点、登場人物が、短いが正確で自然なフランス語を
話しているという点である。

実際、言葉というものには、文法、語彙のみでな
く、その状況、ボディランゲージも含めたその場その
場の状況が大きく関わっていること、コミュニケー
ーションにあたって、何が重要で、何が伝えたいか
といったことが重要であることを実際に体験できた
と同時に、ディクテの聞き取り、書き取りによって、
知っていたが使えなかった文法知識、知っていたが
書けなかった綴りを、遊びながら自分のものにして
いくこともできたと思う。

一回の授業で多くを進むことはできなかったが、
そのことによって、一度に出てくる新しい単語が、
せいぜい1～2個となり、印象に残るので、努力し
たという意識なく、知っているが使えない単語とし
てではなく、自然に口をついて出てくる使える言葉
としてその場で覚えることができた。

「b」と「v」の音のように、繰り返し説明し、耳を
慣らさなければならないものもあれば、「hanté」の
ように、一度で、耳に、印象、記憶に残る単語もあ
ったわけだが、私自身の課題は、気長に何度も繰り返
すだけでなく、一つ一つの事項、あらゆる事項に、イン
パクトのある説明、解説を工夫し続けることである。

尚、前期レポートは、メモしたノートをパソコン
に打ち込んで提出することとし、今夏の研修で入手
したウィンドウズのフランス語のキー配列表を全員
に配布した。(マッキントッシュの場合は、キー配
列はパソコンのなかで確認できる。) このことによ
って、全員が、アクサン等も含め、フランス語をパ
ソコン入力することができるようになった。後期第
1回目の授業はこの提出レポートの確認から始める
こととなった。

学生たちが非常に楽しんでフランス語を学んでい
る姿を目にすることで、私自身、楽しい充実した時
間を過ごすことができた。ビデオを見つけてきて下
さった本学の五十嵐嘉晴教授と、自由科目に、楽し
く真面目に参加してくれた、井林真希子さん、中沢
友希さん、永津照見君、宮野雅美さんに感謝します。